

東京大学は、平成 14 年 10 月 18 日に「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(平成 11 年法律第 117 号、以下「PFI 法」という。)第 5 条第 3 項の規定により、東京大学(地震)総合研究棟施設整備事業に関する実施方針を公表した。

今般、同法第 6 条の規定に基づき、東京大学(地震)総合研究棟施設整備事業を特定事業として選定したので、同法第 8 条の規定により客観的評価の結果をここに公表する。

平成 15 年 1 月 27 日

東京大学総長 佐々木毅

特定事業の選定について

1 事業概要

東京大学（地震）総合研究棟施設整備事業（以下「本事業」という。）は、PFI法に基づき、選定事業者が新たに東京大学（地震）総合研究棟施設（以下「本施設」という。）を設計・建設し、維持管理業務を遂行することを事業の範囲とする。選定事業者の業務範囲を超える運營業務については、東京大学（以下「大学」という。）が行う。

（1）施設整備概要

1）計画地 東京都文京区（本郷キャンパス内）

2）整備内容

施設内容：東京大学（地震）総合研究棟施設

施設規模：総床面積 8,000 m²程度

敷地面積：561,201 m² 本郷地区キャンパス全体

用途地域等：第1種中高層住居専用地域

準防火地域

第1種文教地区

第3種高度地区

日影規制(二)

形態規制：建ぺい率 60%

容積率 300%

（2）事業内容

対象となる事業の範囲は、次のとおりとする。

1) 施設整備業務

事前調査業務（追加測量、地盤調査を含む。）及びその関連業務

施設整備（外構を含む。）に係る設計（基本設計・実施設計）及びその関連業務

施設整備（外構を含む。）に係る建設工事及びその関連業務

工事監理業務

周辺家屋影響調査・対策

電波障害調査・対策

建設工事及びその関連業務に伴う各種申請等の業務

敷地造成

埋蔵文化財調査業務（試掘は含まない。）

2) 維持管理業務

建物保守管理業務（点検・保守・経常修繕を含む。）

建物付帯設備保守管理業務（設備運転・監視・点検・保守・経常修繕を含む。）

外構施設保守管理業務（点検・保守・経常修繕を含む。）

清掃業務（建築物内部及び敷地内の清掃業務）

保安警備業務

維持管理業務にかかる光熱水費は大学が実費を負担する。

大規模修繕業務については、大学が直接行うこととし、選定事業者の業務範囲からは外すものとする。

(3) 事業方式

本事業は、PFI法に基づき実施するものとし、本施設を設計、建設した後、大学に施設の所有権を引き渡し、事業期間中に係る維持管理業務を実施するBTO(Build, Transfer and Operate)方式とする。

土地は、本事業実施に必要な範囲を選定事業者は無償で貸与する。

2 大学が自ら事業を実施する場合とPFI方式により実施する場合の評価

(1) コスト算出による定量的評価

1) 算出に当たっての前提条件

本事業において、大学が自ら実施する場合の財政負担額とPFI方式により実施する場合の財政負担額の比較を行うにあたり、その前提条件を次のとおり設定した。

なお、これらの前提条件は、大学が独自に設定したものであり、実際の応募者の提案内容を制約するものではなく、また一致するものでもない。

大学が自ら実施する場合

P F I 方式により実施する場合

2) 算出方法及び評価の結果

上記の前提条件を基に、大学が自ら実施した場合の財政負担額とPFI方式により実施する場合の財政負担額を事業期間中にわたり年度別に算出し、現在価値換算額で比較した。

この結果、本事業を大学が自ら事業を実施する場合に比べ、PFI方式により実施する場合は、事業期間中の財政負担額が9.2%削減されるものと見込まれる。

また、選定事業者に移転するリスクについては、可能な限り定量化を試みたものの、結果に対する裏付けが不明確であることから、数値による公表は控え、定性的な評価に止めることとした。

(2) PFI方式により実施することの定性的評価

本事業においてPFI方式を用いた場合、大学の財政の効率的使用(VFM)の達成によるコスト削減の可能性といった定量的な効果に加え、以下のような定性的な効果が期待できる。

1) 効率的な維持管理の実施

本事業はPFI方式を用いることにより、設計・建設・維持管理業務までを一括して選定事業者任せのため、各業務毎に発注する場合と比較して効率化がはかられ、結果かかる費用の最小化を視野に入れた整備が可能になる。また、併せて選定事業者の創意工夫が発揮されるものとして期待できる。

2) 研究環境の向上

PFI方式によるサービスの提供は、設計・建設から維持管理までの一貫した体制の採用によって、施設の利用しやすさや機能性の向上が期待できる。また、維持管理業務においては一層の専門性を確保し、選定事業者のノウハウが十分に発揮され、最適なサービスの提供が期待できる。

3) リスク分担の明確化による安定した事業運営

本事業の計画段階においてあらかじめ発生するリスクを想定し、その責任分担を大学及び選定事業者の間で明確にすることによって、問題発生時における適切かつ迅速な対応が可能となり、業務目的の円滑な遂行や安定した事業運営の確保が期待できる。

4) 財政支出の平準化

大学が自ら実施した場合、短期間に国の予算に初期投資費用を計上することとなるのに対し、P F I方式で行う場合、サービスの対価として毎年一定額を支払うことから、財政支出を平準化することが可能になる。

5) 災害時における緊急研究活動拠点機能等の効果的実現

国内・国外連携の中核組織としての機能、地震火山災害時における緊急研究活動の拠点機能、そして、弾力的な研究プロジェクトの編成等に対応しうる機能など、本施設に求められる特有の機能を効果的に実現するために、民間企業のアイデア活用が期待できる。

3 . 総合的評価

本事業は、P F I方式にて実施することにより、大学が自ら実施した場合と比較して、定量的評価において約9.2%の財政負担額の削減率が達成されることが見込まれる。また、定量化できない多くの定性的効果も期待できる。

以上により、本事業を特定事業として実施することが適当であると認め、ここにP F I法第6条に基づく特定事業として選定する。

以 上